

# 現代中国における イスラム文化と儒教文化

講師 王 建新 氏

本学COE訪問教授・中山大學人類学部教授

概要：

中国には、イスラムと儒教という二つのアジアないし古くから世界の文明体系に繋がる文化の流れがある。イスラムは、回、ウイグル、カザフ、キルギス、ウズベク、タタール、タジク、サラール、東郷と保安などで、少数民族の伝統的文化の中核として機能している。儒教は、道教、仏教、キリスト教および様々な民間信仰と混合して漢族民衆の生活文化を支える文化体系である。信仰者数を基準にすれば、中国のイスラムはマイノリティーな宗教であり、中国社会の中心から離れたところに位置付けられる。よって、中国の大多数を占める漢族の文化である儒教とは比べられないほど重要性が違う、という捉え方がある。しかし、実際の状況は、かなり複雑でそう簡単には言い切れない。

特に、少数民族として中国ムスリムの中で最大の民族集団である回族を事例にして考えた場合、その点は明らかである。回族は、中国全域に散在的に分布し、各居住地域で他の民族集団と仲良くするために言語や生活様式を変えたりもするが、一貫して漢字文化に精通し、イスラム教徒であるとともに、儒教文化にも通じた人々である。中国の歴史上において「回儒」という美称を得た回民知識人も多く、儒教の教養を以ってイスラムを理解し信仰する、という流れもあったほど、イスラム文化と儒教文化との融合度は高い。現在の回族社会の内的な組織状態を調べると、まさにイスラム的とされながらも、中国的ないし儒教的な社会組織や規律規範が存在することが分かる。

この研究発表では、人類学の親族研究と象徴分析の手法を用いて、回族神秘主義、イスラムにおける宗教・社会組織のあり方や成員の帰属意識などの事例分析を行い、イスラム的な宗教伝統と中国的な社会組織とが混合して回族の地域社会の組織と運営を支えていることを明らかにしたい。

2006年5月13日(土) 14:00~16:00 (日本時間)

愛知大学名古屋校舎 研究館2階 第1会議室

南開大学・中国人民大学 愛知大学ICCS分拠点(講義室)

(南開大学・中国人民大学とテレビ会議システムを通して同時開催いたします)

【お問い合わせ先】愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室

Tel : 0561-36-5637 Fax : 0561-36-5422

聴講無料